

2020年7月28日

愛媛県知事 中村時広 様
伊方原発環境安全管理委員会 委員長 様
同 原子力安全専門部会部会長 様

松山市三番町 5-2-3 ハヤシビル 3F
伊方原発をとめる会
事務局長 草薙順一

伊方連続トラブル「報告書」の撤回と抜本見直しを求める申し入れ

7月16日の伊方原発環境安全管理委員会原子力安全専門部会における「伊方発電所3号機第15回定期検査中に連続発生したトラブルに関する報告書」(案)は、事態の重大性にもかかわらず、その内容は根本問題に迫っておらず、まるで再稼働への通過点のような有様です。

○制御棒引き抜き問題では、付着した酸化物の詳細調査を重視する一方で、異常の生じた制御棒クラスタ駆動軸の交換時期の規定はなく交換も一切検討されていません。期限なく使い続けるというもので、経年劣化も顧みない異様な姿勢と言わねばなりません。

○燃料集合体のラック枠乗り上げについては、かつて燃料棒の微少な振動によって微小孔が発生したことから、安易に「健全性に問題はない」とすべきではありません。

○全交流電源の喪失については、模擬負荷を使わず3号機を負荷対象にしたことに、きわめて危険な問題があったことを厳しく指摘すべきです。メーカーが確認回数1万回とする断路器が、わずかに約350回でトラブルに至ったのに、機構の欠陥を疑って大幅な取替えをする検討は行われていません。この電源喪失による3号機の使用済み燃料プールの冷却停止は極めて軽く扱われています。愛媛新聞が2月6日付1面トップで「燃料冷却43分停止」と報じた冷却途絶時間は、報告書本文には記載されず、添付図中に1ミリほどの数字を探さなくてはなりません。発生当日の県と四電による記者会見で、冷却途絶時間が公開されなかった問題点も一切触れられていません。

このような「報告書」によって、連続トラブルの問題が終わったとして、定検が再開されるようなことがあってはならず、再稼働させず廃炉に向かわせる事を含めた真剣な検討こそ行って報告されるべきです。

ついては、下記3点を申し入れます。

記

- (1) 「連続発生したトラブルに関する報告書」は撤回し、定期点検の再開を認めることなく廃炉への転換を含めた抜本見直しを行うこと。
- (2) 模擬負荷を使わず3号機を負荷にしてしまった四国電力の不手際を厳しく指摘すること。
- (3) 使用済み燃料プールの冷却途絶が43分間にも及んだのに、県と四電がメディアにも住民にもこのことを知らせようとしなかった問題点を真剣に反省して報告書に記すこと。